

令和6年度 第1回 入野中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年4月25日（木） 9時00分から11時45分まで
- 2 開催場所 入野中学校 大会議室
- 3 出席委員 大塚 哲雄、御室 福二、齋藤 良夫、幅 あけみ、内藤 明子、  
岡田 光弘、村上さくら
- 4 欠席委員 田口 章、田澤 健司
- 5 オブザーバー 松下 正行（浜松市議会議員）、岩田 邦泰（浜松市議会議員）  
徳増宏之（入野協働センター長）
- 6 学 校 高橋 知己（教頭）、大庭 孝仁（主幹教諭・CS担当）、  
久保 理絵香（CSディレクター）
- 7 教育委員会 牧野 知子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 久保 理絵香
- 10 会長の選出及び副会長の指名

司会から、会長の選出について委員に意見を求めたところ、内藤委員から大塚委員を会長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。また、その後、会長に選任された大塚委員から、村上委員を副会長に指名する旨の報告があった。

11 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、幅委員から御室委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

12 協議事項

- （１）入野中学校運営基本方針について
- （２）夢育やらまいか事業に対する意見書について

13 会議記録

司会の大庭から、委員総数9人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（１）入野中学校運営基本方針について

議長の指示により、教頭から、別紙資料に基づき学校運営基本方針について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 先生方が生徒一人一人を大切に接してくれている。学校運営方針にある丁寧な関わりが実現できていると感じるので、これを続けてほしい。一方で、先生方が遅くまで仕事してくれているので、先生方自身の時間も大切にしていけるために、地域でできることは協力していけるよう話し合っていきたい。（内藤委員）
- ・ 中学生に期待している。現在も、ボランティア、清掃活動、防災訓練など、地域の活動に参加する中学生はしっかり活動してくれている。（幅委員）
- ・ 資源回収に参加する生徒が少なくなった際、中学校に相談をしたら、次の回から中学生が多数参加してくれた。先生方の負担も考え、地域でできることは地域で行いながら、学校と協力してやっていけるとよい。（大塚委員）
- ・ パソコン部の生徒がボランティアに来てくれるなど、中学生が活動に参加してくれる。協働センターとしても学校と協力してやっていきたい。（徳増協働センター長）

- ・ 現在外国人生徒はどのくらい在籍しているのか。(御室委員)  
→ 23名が日本語指導を必要としており(5名は全く話せない)、取り出し指導で日本語や学習指導をしている。言語は6言語にわたり、家庭との連絡も難しい。加配措置をしてもらっているが、間に合っていない状況である。(高橋教頭)
- ・ 校長先生が校内を見て回ってくれたり、教頭先生が授業や部活動で生徒と関わってくれたりしてくれるのは、とてもありがたい。また、地域活動で学ぶことは多いと思うので、これからも生徒にはどんどん外に出て活動してほしい。(村上委員)
- ・ 学級閉鎖の際のリモート授業は出席になるのか。授業は進めるのか。  
校外学びの教室へ通っている生徒はいるか。(岩田議員)  
→ 学級閉鎖中は出席停止のため出席にはならない。体調が悪くて参加できない生徒も多いので、授業を先に進めることはしない。学びの教室は、市が運営している所に3名、それ以外の所へ3名通っている。(高橋教頭)
- ・ 不登校や発達支援学級の生徒はどれくらいいるのか。また、インクルーシブ教育対象の生徒はいるか。(松下議員)  
→ 昨年度30日以上欠席で不登校とカウントされた生徒がおおよそ50名。本年度の発達支援学級は19名。不登校生徒については、放課後に登校するなど、個別最適な指導を保護者と話し合いながら進めている。インクルーシブ教育の対象生徒はいないが、拡大教科書を使用している生徒はいる。バリアフリーにするなど、いつでも対応できるように準備はしている。(高橋教頭)  
→ 不登校生徒の個別対応は、働き方改革と逆行する面があり難しい。(松下議員)
- ・ 不登校生徒には、学力と社会適応能力の2つの問題がある。特に社会適応能力が低い生徒は困っている。そういった生徒に対応する人員が必要である。(大塚委員)
- ・ 自分の子供が、不登校の友達が修学旅行に参加したと話していた。行事に参加できるように先生方が努力してくれている。地域でもそういう場があるとよい。(岡田委員)
- ・ 場面が変われば参加できるという生徒もいる。こういう会議で共有することで、それぞれの立場で生徒のために協力できればよい。「家庭や地域と子供を育てる」ということがこの協議会の目的であるので、今後もしっかり協議していけるとよい。(大塚委員)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

## (2) 夢育やらまいか事業に対する意見書について

議長の指示により、高橋教頭から、夢育やらまいか事業について、佐鳴湖の水質調査、茶華道の講師、花いっぱい運動に6万円の予算を執行する旨の説明があった。委員から、以下の発言があった。

- ・ 佐鳴湖の水質調査は、発表しているのか。(御室委員)  
→ 毎年生徒が変わるため、継続研究として認められないので、単発の研究として発表している。(高橋教頭)
- ・ 今後、協働センターの講座を利用するなどして、地元の歴史や文化を知ってもらう活動はできないか。博物館の館長さんに講師を依頼するのもよいと思う。(松下議員)  
→ 1年生の総合的な学習の時間で地域学習を行っているので検討したい。(高橋教頭)

## その他報告事項等

- ・ 司会から、次回会議は、令和6年10月15日(火)大会議室で開催する旨の報告があった。
- ・ 牧野指導主事より、協議会についての自己評価について説明があった。